

## 製品名新旧対比表

種別	旧製品名	新製品名
主材	ワンガードクリア	シーカガード® ワンガードクリア
プライマー	ワンガードクリアプライマー	シーカガード® ワンガードクリア プライマー
トップコート	ワンガードクリアトップ	シーカガード® ワンガードクリア トップ



# RTワンガードクリア工法 無繊維型高強度透明樹脂 コンクリート保護・はく落防止工法

免責事項：シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページ<https://jpn.sika.com/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2025年2月版

(25.2月現在) 25.02.1.000 SJ

# 1成分形高強度ウレタン塗膜が実現した驚異の性能を発揮

インフラストラクチャー整備として各種土木構造物の整備が行われてきましたが、近年それら構造物の耐久性に対する問題が発生しています。コンクリート構造物においては、雨水や地下水からの水、融雪剤や飛来塩および海水による塩分の浸透により鉄筋の腐食・発錆から爆裂欠損を誘発し構造物の強度を低下させています。

トンネル内でのコンクリート塊落下事故や高架橋からのコンクリート片はく落事故等を受けて、発注者はそれら事故を防ぐため独自の基準を作成し、一斉に対策工事に取り組んでいます。

当社ではこの様な問題を解決するために、中性化・塩害によるコンクリートの劣化を防止し、さらに抗張力部材としての繊維を用いずに「押抜き試験性能」が満足できる透明なコンクリートはく落防止対策機能を持った「RTワンガードクリア工法」を開発しました。

※NETIS登録番号:CG-190009-VR

## 特長

### 劣化状況の見える化

樹脂が透明であるため、施工後も躯体コンクリートの劣化状況が目視にて判断できます。

### 工期の大幅短縮

従来の含浸接着樹脂で三軸ビニロン繊維シートを貼り付ける連続繊維シート工法と比べると工期短縮が可能です。連続繊維シートを使わずに塗るだけで「コンクリート保護」と「はく落防止」ができるため、I桁等の複雑な形状の施工で効果を発揮します。また、小面積であれば、1日で施工が可能です。

### コンクリート保護 優れた性能

RTワンガードクリア工法は、しゃ塩性、中性化阻止性、ひびわれ追従性等の様々なコンクリート保護性能を持っており、さらに「押抜き試験」に適合しています。

## 仕様工程

工程	使用材料	使用量 (kg / m <sup>2</sup> )	膜厚
1	シーカガード®ワンガードクリア プライマー	1成分形ウレタン樹脂 0.15	0.94 mm以上 (硬化後)
2	シーカガード®ワンガードクリア	1成分形ウレタン樹脂 1.20	

※「艶消し仕上げ」は別途トップコートを施工します。(シーカガード®ワンガードクリア トップ塗布量 0.15kg / m<sup>2</sup>)  
※ロス率は含みません。

## 施工手順



シーカガード®ワンガードクリア  
プライマー塗布



シーカガード®ワンガードクリア塗布

## 性能

試験項目	結果	規格		
		東日本・中日本・西日本高速道路株式会社 構造物施工管理要領(平成29年7月) コンクリート表面被覆の性能照査項目		
塗膜の健全性	標準養生後	塗膜は均一で流れむら・ふくれ・われはがれがない。		
	促進耐候性試験後	白亜化はなく、塗膜にふくれ・われはがれがない。		
	温冷繰返し試験後	塗膜にふくれ・われはがれがない。		
	耐アルカリ性試験後	塗膜にふくれ・われはがれがない。		
コンクリートとの 付着性	標準養生後	付着強度 3.58 N / mm <sup>2</sup>	主な破断場所 基板破壊	
	促進耐候性試験後	3.04 N / mm <sup>2</sup>	基板破壊	
	温冷繰返し試験後	2.31 N / mm <sup>2</sup>	基板と塗膜の界面破断	
	耐アルカリ性試験後	2.70 N / mm <sup>2</sup>	基板と塗膜の界面破断	
しゃ塩性	測定下限 (0.34 × 10 <sup>-3</sup> mg / cm <sup>2</sup> ・日) 以下	塗膜の塩素イオン透過量が 5.0 × 10 <sup>-3</sup> mg / cm <sup>2</sup> ・日以下であること。		
酸素透過阻止性	3.1 × 10 <sup>-2</sup> mg / cm <sup>2</sup> ・日	塗膜の酸素透過量が5.0 × 10 <sup>-2</sup> mg / cm <sup>2</sup> ・日以下であること。		
水蒸気透過阻止性	1.1 mg / cm <sup>2</sup> ・日	塗膜の水蒸気透過量が5.0 mg / cm <sup>2</sup> ・日以下であること。		
中性化阻止性	0 mm	中性化深さ1 mm以下であること。		
ひびわれ追従	伸び	判定方法	塗膜の伸びが0.4 (0.8) mm以上であること。	
	標準養生後(常温時)	1.51 mm		最大値
	標準養生後(低温時)	1.05 mm		最大値
塗膜の健全性	耐湿試験後	10日間で塗膜にふくれ・われはがれがない。	7日(10)日間で塗膜にふくれ・われはがれがないこと。	
	促進耐候性後(常温時)	1.06 mm	最大値	

試験項目	結果	規格
		JSCE-K 533-2013 8.コンクリート片の剥落防止に適用する表面被覆材の押抜き試験方法(案)
はく落防止の押抜き試験	2.4 kN	

試験項目	結果	規格
		西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部施設部 コンクリート構造物補修の手引き[第六版] (平成26年4月) 表面被覆材基本規格値 準拠
水蒸気透過性	0.29 mg / cm <sup>2</sup> ・day	0.03 mg / cm <sup>2</sup> ・day以上

※試験値は、代表値であり性能を保証するものではありません。